

第4学年 国語科書写学習指導案

平成17年12月2日（金）第5校時 指導者 伊月義治 佐野雅子

1 単元 点画の方向と長さ

題材「マラソン」

2 目標

- 自分のめあてを決め、めあてに向かって進んで学習に取り組むことができる。
(関心・意欲・態度)
- 自分や友だちのよさを見つけ、認め合うことができる。(人間関係づくり)
- かたかなの点画の方向と長さを考え、「マラソン」の字形を整えて書くことができる。(知識・理解・技能)

3 指導計画

第1時・・・点画の方向の違いを理解して、自分に合っためあてを決める。

第2時・・・自分のめあてに向かって書き、お互いの良いところを認め合う。…(本時)

第3時・・・点画の方向の違いを理解して、ていねいに書く。

4 指導上の立場

- 第4学年の書写学習のねらいは「毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書くこと」である。本単元の題材「マラソン」は、カタカナの点画の方向と長さを考えながら、はらいやおれ、点の筆使いにも注意しながら学習する題材である。

この学習を通して、カタカナの文字を正しく整えて書くための知識を理解し、それをふまえた応用力を身に付けさせたいと考え、取り上げることにした。

- 本学級の児童は、好奇心が旺盛で何事にも意欲的に取り組む反面、根気強く最後までやり抜いたり、互いに教え合いながら取り組んだりすることができにくい。書写学習においても同様で、障害児学級の児童とも書写をはじめ、各教科・道徳・総合的な学習の時間等において、共に活動する時間を多く設定し、障害児学級在籍の児童とともに学習を進めているが、教え合いや助け合いが十分できているとは言えない。

そこで、書写学習を通して、書写学習に対する意欲を高めるとともに、共に学ぶ態度も育てたいと考えた。

- 本校の研究主題「一人ひとりが書く楽しさを味わうことができる書写学習」に迫るため、児童が楽しんで書くことができるように学習過程を以下のような点で工夫した。

- (1) 一人ひとりの能力に応じためあてをもたせるため、技能的な面と態度的な面の両面から個々に考えさせる。

①めあてを持ちやすくするために、手本の字の中で気をつけるポイントを話し合う。

②めあてを自分で考えることが難しい児童の手だてとして、教師からいくつかの選択肢を設け、選べるようにしておく。

③決まっためあては、めあてカードに書いたり、お手本に書き込んだりして、それを見ながら練習することで、常にめあてを意識できるようにする。

- (2) 互いに教え合う場面や評価し合う場面を設定する。

①個々のめあてが達成できたか自己評価する時間と、友だち同士で相互評価する時間を設ける。

②めあてに向かって学習している姿やめあてを意識し、改善された字を書いている児童に対して教師の賞賛の評価も行う。

これらの学習過程を組むことで、子どもたちは、書く楽しさを味わい、もっと書きたい、上手になりたいという意欲を高めることができるのではないかと考えた。

5 評価規準

関心・意欲・態度	知識・理解・技能	人間関係づくり
○ 自分に合っためあてをもち、かたかなの点画の違いと長さを考えて書こうとしている。 ○ 「ソ・ン、ツ・シ」の点画の方向の違いを理解して書こうとしている。	○ 「マラソン」の点画の方向の違いと長さに気をつけて、ていねいに書いている。	○ お互いの良さを認め合い、自分の学習に生かして書こうとしている。

6 本時案（第2時）

目 標	○ 自分のめあてに向かって、点画の方向や長さを考え、字形などに気をつけて書くことができるようにする。 ○ 互いの作品の良さを認め合い、教え合いながら意欲的に字を書くことができるようにする。
学 習 活 動	教 師 の 支 援 及 び 評 価
1 学習用具の準備をする。 2 お互いのめあてを確認する。 3 練習をする。 ・一枚練習をする。	・ 授業が始まるまでに、習字道具、下敷き、めあてカード付き手本・筆洗い容器を準備できるように配置図で示す。 ・ 本時の振り返りでお互いの伸びが認め合えるように、個に応じた技能と態度の両面のめあてをいくつか紹介したり、お互いのめあてを確認させたりする。 ・ 友だちのめあてをわかりやすくするために、学習カードを色分けする。 評価① ----- 自分のめあてをはっきりともつことができたか。 ・ 振り返りで自分の伸びが実感できたり、書く視点をはっきりさせたりするために、まず1枚を書いてそれぞれの書くめあてを再確認できるようにする。 ・ 友だちのめあてに気づいたり、さらに友だちの気をつける

・数枚練習する。	ことを助言できたりする児童を賞賛する。
4 いいところを見つけ合う。	・ 自分のめあてに向かって練習できるように，学習カードの書き込みや友だちの助言を参考にするように言う。 ・ めあてを達成できたと思われる作品と最初一枚を比較させ，友だちにもその伸びがわかるようにする。 ・ 同じめあてや異なるめあてでがんばった友だちの作品を見て，良くなったところや直したらよいところを見つけるように助言する。 ・ お互いのいいところを見つけたことをほめることで，よりよい評価を共有するようにする。
	---評価②--- 友だちのよいところを見つけてあげることができたか。
4 振り返りをする。	・ めあてに応じた字が書けたかの振り返りをさせ，自分の伸びた点に気づかせるようにする。 ・ 友だちや先生に教えてもらったことを参考にしながら次時の練習に生かすため，学習カードで振り返るようにする。
	---評価③--- 振り返りをとおして，自分の伸びに気づくことができたか。
5 片づけをする。	・ 移動しないで効率的な片付けができる筆洗い用の容器を活用し，短時間で処理できるようにする。